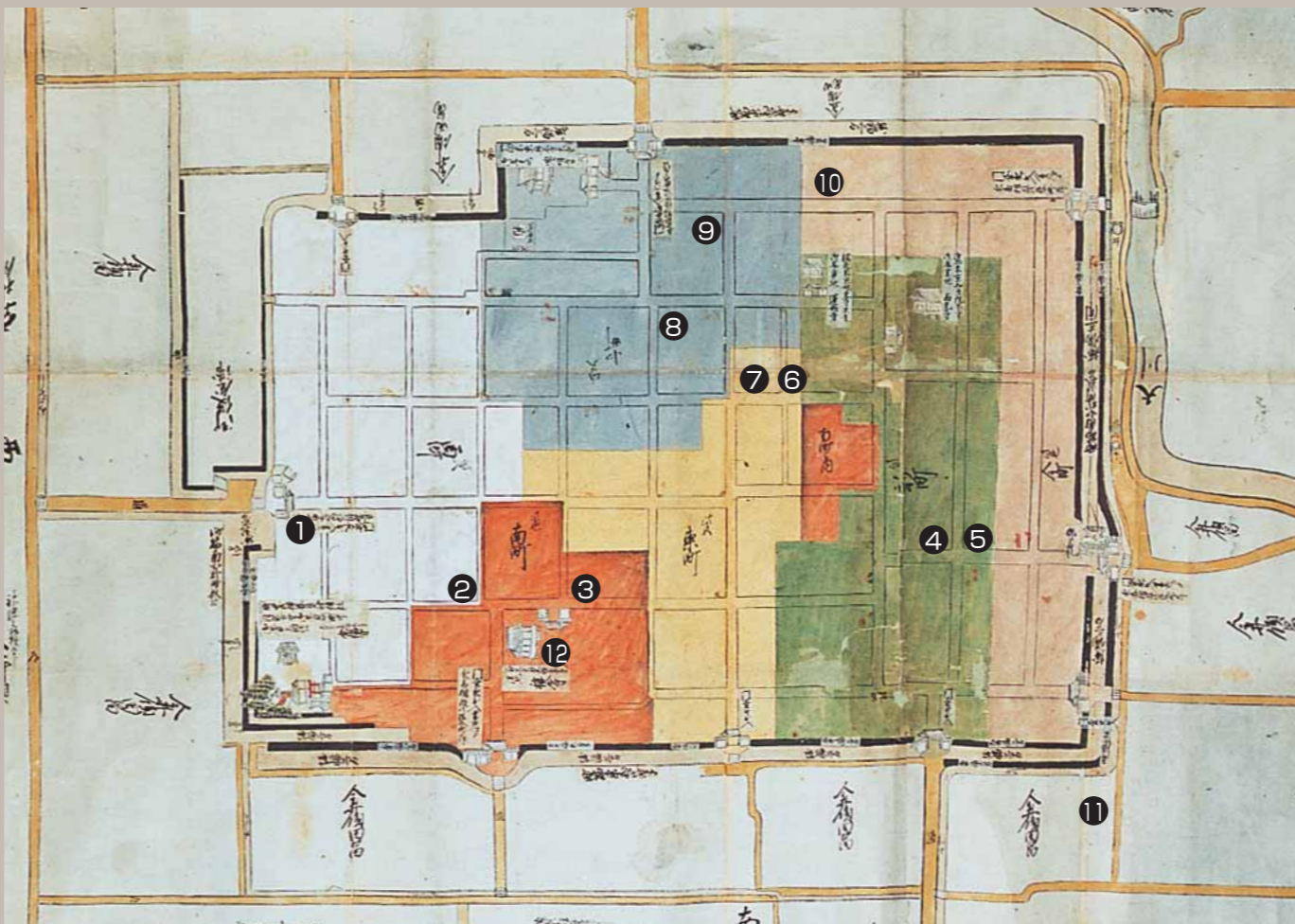


今井町

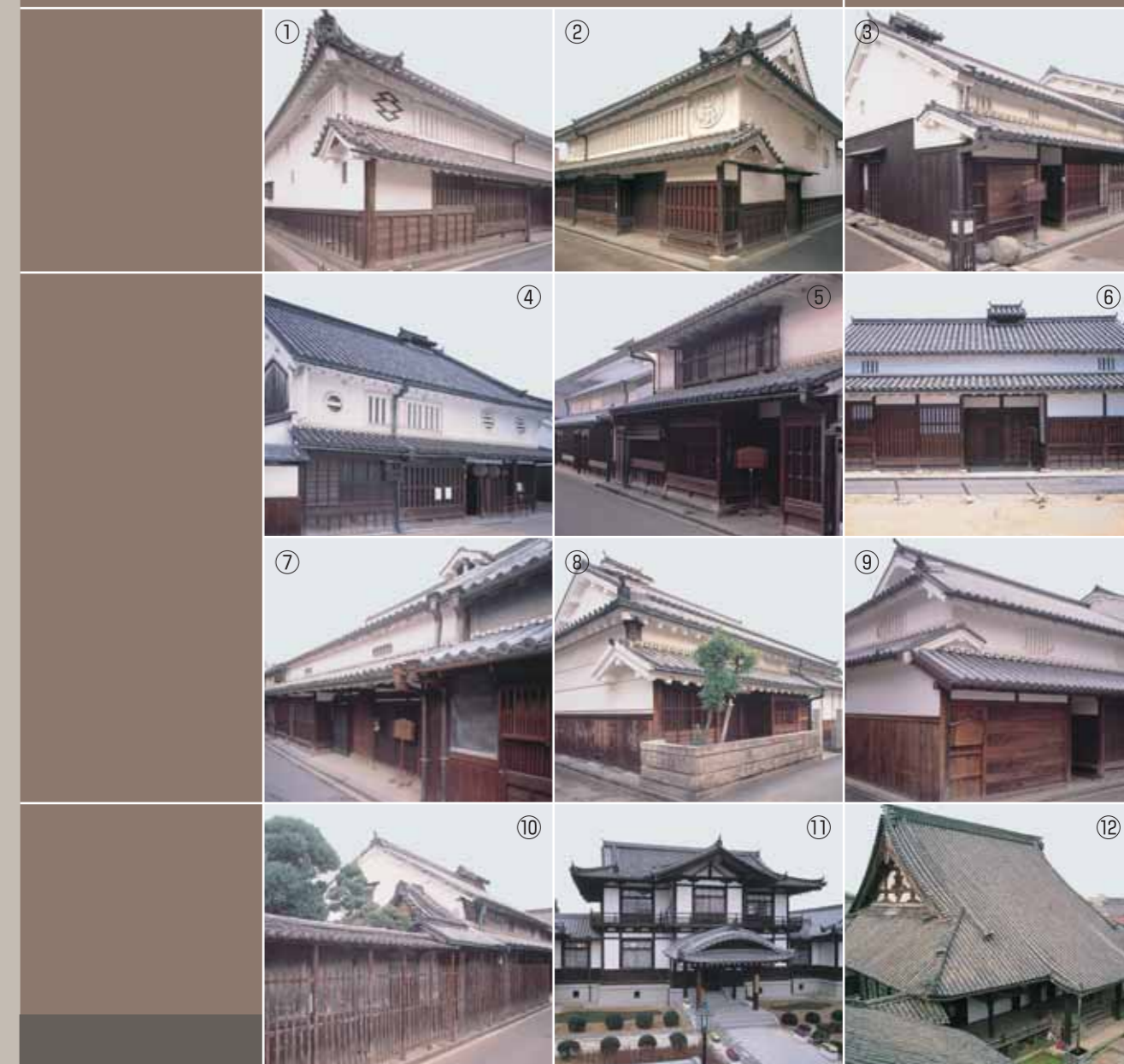
Historic Town Imai-cho

歴史的町並み

町並みの核となる建築物 Important Architecture



今井町古絵図（17世紀末頃）



- ①今西家住宅 The Imanishi Residence**
 今井町の西端にあり、惣年寄の筆頭をつとめていた家です。慶安 3 年（1650）に建てられた民家ですが、城郭のような構造で別名「八つ棟造り」とよばれている豪壮な建物です。
- ②豊田家住宅 The Toyoda Residence**
 旧は、木材商「西の木屋」牧村家の所有で、幕末には大名貸しを行い藩の蔵元等をつとめていた豪商です。建物は寛永 2 年（1662）に建設されたもので、今西家住宅と並び、今井町における上層町家の好例です。
- ③中橋家住宅 The Nakahashi Residence**
 称念寺の筋向かいにあり、屋号を「米彦」といい江戸時代は米屋を営んでいました。主屋は、18 世紀後半頃に建てられた平屋建の町家でしたが 19 世紀初頭頃、正面通りに「つし二階」が増築されました。
- ④河合家住宅 The Kawai Residence**
 江戸時代初期頃、上品寺村より移住し、古くより「上品寺屋」の屋号で酒造業を営んでいます。18 世紀中頃に建てられた早い時期の二階建町家で二階に座敷等が設けられており、豪商の片鱗がうかがえる建物です。
- ⑤高木家住宅 The Takagi Residence**
 19 世紀初頭頃、「四条屋」より分家し「大東の四条屋」の屋号で、酒造業等を営んでいました。発達した二階建で、一階、二階共 2 列 6 室型の部屋となっています。また正面通りの格子の精彩さ等、幕末期の上層町家の好例です。
- ⑥旧米谷家住宅 The Former Kometani Residence**
 「米忠」の屋号をもち、広く金物商を営んでいました。18 世紀中頃の建物で、後に、内蔵や蔵前座敷を増築しました。主屋は他家と異なり、5 室型で農家風のイメージが強い建物です。
- ⑦音村家住宅 The Otomura Residence**
 「細九」の屋号で金物問屋を営んでいました。17 世紀後半主屋を建て、後主屋西北部に「つのだしき」を増築し、19 世紀中頃、西側に座敷が追加されました。当家は時代の情勢にあわせて逐次増築されているのが特徴です。
- ⑧上田家住宅 The Ueda Residence**
 今西家・尾崎家と並び惣年寄をつとめていました。主屋は祈祷札から延享元年（1744）頃の建築とみられます。入口を西側に設け屋根も他家と異なっています。内部も惣年寄の特権から装飾的な要素が多いです。
- ⑨吉村家住宅 The Yoshimura Residence**
 旧は上田家で、「壺八」の屋号をもち、肥料商その他の商いをしていました。主屋は文化 2 年（1805）の再建ですが、他の建物は約 50 年程遡ります。当家は狭い敷地に多くの建物を配置し、一般商家の屋敷構えを知ることができます。
- ⑩山尾家住宅 The Yamano Residence**
 十市郡新堂村より移住したと伝えられる「新堂屋」の屋号で、幕末には町年寄をつとめた大商家です。広い敷地に、数多くの建物が道路に面して建ち、町並み景観の一翼を担っている建物です。
- ⑪旧高市郡教育博物館 The Takachi District Educational Museum**
 明治 36 年（1903）に建てられた県下初の社会教育施設です。昭和 4 年より今井町役場として長く使用されています。修理にあたり旧状に復元し、今井まちなみ交流センター華蕨として再生しました。
- ⑫称念寺本堂 The main Syonenji temple**
 今井町は、称念寺の境内地として発達した「寺内町」です。建物は、江戸時代初期に再建された大規模な浄土真宗本堂です。後の改修はありますが、当初の特徴をよく残した建物です。

MEMO

年代	できごと
12~13世紀	高市郡今井庄が成立する。
至徳 3年 (1386)	興福寺領今井庄が文献にはじめて表われる。
明応 8年 (1499)	浄土真宗今井道場の存在が確認される。
天文年間 (1532~1555)	東・西・南・北 4町から成る今井寺内町が成立する。
元龜 元年 (1570)	石山合戦がはじまり、今井も本願寺に同調か。
天正 3年 (1575)	今井郷民、信長軍に降伏する。
文禄 4年 (1595)	太閤検地で今井村と記され、計六町を数える。 一寺内町の性格を残す。 *家持 466 人 屋敷筆数 522 (人口 4,000 人 家数 1,200 軒前後、と伝える)
慶長 5年 (1600)	関ヶ原合戦後、一時幕府の天領となる。
元和 7年 (1621)	今井兵部が今井の支配を命じられる。 今西・尾崎両氏が惣年寄に指名される。
寛永 11年 (1634)	銀札(今井札)発行を許される。
16年 (1639)	惣年寄役に新たに上田氏を加える。
延宝 7年 (1679)	再び天領となる。一今井最盛期。 *人口 4,000 人 家数 1,082 軒
元禄 10年 (1697)	この頃、金融業を営み大名貸しをする者が多くなる。
元文 5年 (1740)	重税のため町民困窮し、この頃から戸口減少、町内に空き地が目立ち始める。一今井衰退の兆し。 *人口 3,786 人 家数 924 軒
享和 4年 (1804)	*人口 2,795 人 家数 797 軒
安政 元年 (1854)	東海道、東山道等大地震。
明治 2年 (1869)	版籍奉還、高取県に属する。
4年 (1871)	奈良県に属する。惣年寄今西氏が引き続き、市中取り締まりを命じられる。
10年 (1877)	明治天皇が今井へ行幸される。(称念寺行在所)
22年 (1889)	小幡と併せ今井町となる。
昭和 2年 (1927)	奥丹後大地震。
9年 (1934)	室戸台風。
11年 (1937)	二上地震。
30年 (1955)	東京大学による町家調査が行われる。
32年 (1957)	今西家が重要文化財に指定される。[「今井町史刊行」]
36年 (1961)	第二室戸台風。
47年 (1972)	旧米谷家・高木家・音村家・中橋家・豊田家・上田家が重要文化財に指定される。
51年 (1976)	河合家が重要文化財に指定される。
56年 (1981)	吉村家(旧上田家)が県文化財に指定される。
60年 (1985)	山尾家が県文化財に指定される。
平成 2年 (1990)	旧高市郡教育博物館(現今井まちなみ交流センター華蕨)県文化財に指定、同館内に今井町町並み保存対策準備室を開設する。
5年 (1993)	今井町まちなみシンポジウムを開催する。 重要伝統的建造物群保存地区に選定される。(12月 8日)
7年 (1995)	阪神、淡路大震災起こる。
9年 (1997)	全国伝統的建造物群保存地区協議会が開催される。
10年 (1998)	今井町フォーラムを開催する。台風 7 号が屋屋に大きな被害を残す。
11年 (1999)	「災害に強いまちづくり」シンポジウムを開催する。
14年 (2002)	称念寺本堂、重要文化財に指定される。
15年 (2003)	全国町並みゼミ かしばら・今井大会を開催する。



